

# 平成24年度石川県リハビリテーションセンター事業実績

## I 県地域リハビリテーション支援センター事業

### 1 地域リハビリテーション推進検討会議の開催

#### (1) 目的

高齢者や障害のある方々が住み慣れた地域で自立した生活を送るためには、リハビリテーションが総合的かつ一貫性をもって提供される必要がある。そこで、地域リハビリテーションサービスの相談・支援と関係機関との連携体制確立を図るため、県地域リハビリテーション推進検討会議を開催する。

#### (2) 会議の構成

学識経験者、医師会等職能団体、患者、障害者団体、市町等の代表者

#### (3) 実施状況

開催期日	主 な 議 題	出席者数
H25. 3. 21	平成24年度県リハビリテーションセンター事業の実施状況 平成25年度県リハビリテーションセンター事業の概要 その他	委員 14 人

### 2 地域リハビリテーション支援事業

高齢者や障害者が住み慣れたところで生き生きとした生活が送れるよう、地域の医療、保健、福祉、教育、就労に関係する機関に対して、リハビリテーション技術の支援及びリハビリテーション担当職員の人材育成のための研修を行う。

#### (1) 他機関への個別支援

依頼機関	件数
医療機関	186
自立支援法関連施設（障害者施設等）	134
教育機関（特別支援学校、特別支援学級等）	185
介護保険法関連施設	45
訪問リハビリテーション	8
保健福祉センター	20
市町	68
更生相談所	11
難病相談・支援センター	73
高次脳機能障害相談・支援センター	197
職業関連施設	10
その他	11

#### (2) 身体障害者更生相談所と協働（個別支援）

補装具対象種目	人数（延べ件数）
電動車いす	4(18)
重度障害者用意思伝達装置	1(1)
座位保持装置	2(11)
合 計	7(30)

## (3) 福祉施設、学校等への事業支援

障害者施設：11施設、高齢者施設：6施設、学校：6施設

支援内容	件数
運動、作業、レクリエーション指導	67
環境調整や福祉用具の支援	26
委員会への参加	13
研修会講師	16
合計	122

## (4) 市町、保健福祉センター等への事業支援

事業名	依頼先	回数
県障害者自立支援協議会相談支援部会	県障害福祉課	2
白山市障害者等自立支援協議会	白山市	6
金沢市障害者施策推進協議会・ワーキング委員会	金沢市	4
難病療養相談会	金沢市駅西福祉保健センター	1
パーキンソン病相談会	能登北部保健福祉センター	1
パーキンソン病、脊髄小脳変性症相談会	石川中央保健福祉センター	1
突発性下腿骨頭壊死症相談会	石川中央保健福祉センター	1
能登町ボランティア養成講座	能登町健康福祉課	1
生活機能向上に向けた生活支援の在り方	加賀市地域包括支援センター	1
スポーツ科学分野への理学療法支援	いしかわ総合スポーツセンター	17
合計		35

## (5) 他機関への講師派遣、事業支援

研修会及び講義名	主催機関
臨床看護概論：リハビリテーション、理学療法、作業療法	石川県公立大学法人看護大学の非常勤講師
臨床看護概論：リハビリテーション	石川県立総合看護専門学校の非常勤講師
機能訓練指導員研修会	社会福祉法人石川県視覚障害者協会
社会福祉施設への指導会	石川県労働局
加賀市教育会特別支援教育部第3回研修会	加賀市学校教育会
第7回保健・医療・福祉創造フォーラム	金城大学
平成24年度第2回看護・介護部会研修会	石川県老人保健施設協議会
平成24年度市町等身体障害者福祉事務担当者研修会 「補装具事務取扱指針の一部改正に係る留意点に関する講義」	石川県身体障害者更生相談所
県政出前講座：バリアフリー	石川県生活研究グループ協議会

研修会及び講義名	主催機関
バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会	北陸信越運輸局
平成24年度バリアフリー住宅改修講習会 「身体特性からみた住環境のポイントと最近の動向」	石川県土木部建築住宅課、NPO法人 バリアフリー総合研究所
障害者の自立を促進する福祉機器の利活用のあり方研究委員会	国立障害者リハビリテーションセン ター研究所
「働く人に学ぶ会」への講師派遣	金沢市立緑中学校

(6) 研修会

ア 地域リハビリテーション研修会 (対象：県内の医療・福祉・保健関係者等)

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H25. 2. 17(日) 10:30~12:30	「生活期リハビリテーションにおける地域連携」 講師：小倉リハビリテーション病院 病院長/ 日本リハビリテーション病院・施設協会 名誉会長 浜村 明德	リハビリテーショ ンセンター	71人

イ 地域リハビリテーション実務者研修会

(対象：介護保険法・自立支援法関連施設のサービス担当者等)

「生活機能向上に向けた計画の立て方とアプローチ」(各圏域で開催)

時間	研修内容
10:20~10:40	生活期リハビリテーションとは
10:40~12:00	①生活機能向上に向けた計画の立て方とアプローチ
13:00~14:20	②動作能力向上に向けた計画の立て方とアプローチ
14:30~15:50	③失語症に対する見方とアプローチ

実施年月日	講師	会場	参加者数
H24. 9. 21(金) 10:20~15:50	①リハビリテーションセンター 作業療法士 職員 ②特別養護老人ホームこすもす 理学療法士 水上 直彦 ③公立能登総合病院 言語聴覚士 谷内 文佳	生涯学習センタ ー能登分室	19人
H24. 10. 1(月) 10:20~15:50	①リハビリテーションセンター 作業療法士 職員 ②金城大学医療健康学部 理学療法士 木林 勉 ③石川県済生会金沢病院 言語聴覚士 野田 奈々絵	リハビリテーシ ョンセンター	87人
H24. 10. 11(木) 10:20~15:50	①介護老人保健施設和光苑 作業療法士 ト部 弘子 ②国際医療福祉専門学校七尾校 理学療法士 武村 啓住 ③恵寿総合病院 言語聴覚士 谷内 節子	能登中部保健福 祉センター	22人
H24. 10. 18(木) 10:20~15:50	①みのり倶楽部みつや 作業療法士 酒井 広勝 ②リハビリテーションセンター 理学療法士 職員 ③やわたメディカルセンター 言語聴覚士 中山 さやか	南加賀保健福祉 センター	27人
合計			155人

ウ リハビリテーション医療専門職研修会  
 (対象：県内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等)

実施年月日	研修会テーマ及び講師	会場	参加者数
H24. 8. 4(土) 14:00～16:00	「高次脳機能障害の評価の解釈と介入方法」 講師：国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 教授 鈴木 孝治（作業療法士）	リハビリテーションセンター	141人
H24. 11. 3(土) 13:30～16:30	「可能性を切り拓くリハビリテーションの新たな戦略－HANDS療法とBMI－」 講師：慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室 専任講師 藤原 俊之（リハ専門医）	〃	29人
H24. 11. 11(土) 10:00～12:00	「重度重複障害のコミュニケーション支援」 講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション療法部 副部長 知念 洋美（言語聴覚士）	〃	38人
合計			208人

エ リハビリテーション技術研修会  
 (対象：県内の介護老人福祉施設、特定施設入所者生活介護等の職員)

実施年月日	研修会テーマ及び講師	会場	参加者数
H25. 3. 5(火) 13:30～15:30	「拘縮予防とポジショニング」 講師：リハビリマネジメントオフィス みんなと 代表 三ツ田 佳代（理学療法士）	リハビリテーションセンター	48人

## II 福祉用具研修・普及事業

福祉用具や住宅改修の活用により、障害児・者の学校や職場を含めた日常生活において、自立度の高い生活の促進や介護者の負担を軽減するための支援技術の普及や意識啓発を目的とした研修等の事業を実施する。

### 1 バリアフリー啓発普及事業

実施年月日	テーマ	会場	参加者数
H24. 9. 16 (日) 10:00～16:00	外出支援の自立を目指す	産業展示館 4号館	150人

## 2 研修会

### ア 福祉用具実技研修会（対象：福祉施設職員、介護支援専門員等）

実施年月日	研修会テーマ及び講師	会場	参加者数
H24. 6. 27(水) 10:30～15:30	「動作・環境・車いすを考える～トイレ編～」 講義 午前 実技 午後 講義・実技講師：リハビリテーションセンター職員	南加賀保健福祉センター	14人
H24. 6. 29(金) 10:30～15:30		リハビリテーションセンター	22人
H24. 7. 3(火) 10:30～15:30		奥能登行政センター	15人
H24. 7. 5(木) 10:30～15:30		能登中部保健福祉センター	10人
合計			61人

### イ 補装具に関する研修会（対象：補装具取り扱い業者、医療機関、福祉施設等）

実施年月日	研修会テーマ及び講師	会場	参加者数
H24. 6. 23(土) 14:00～16:30	「平成24年度補装具研修」 ①平成24年度補装具費給付制度について ②介護保険による福祉用具貸与と補装具費給付制度との適応関係について 講師：県身体障害者更生相談所職員 リハビリテーションセンター職員	リハビリテーションセンター	70人

### ウ テクニカルエイド普及研修会（対象：教育関係者等）

実施年月日	研修会テーマ及び講師	会場	参加者数
H24. 8. 1(水) 10:00～12:00	講演会 講義「障害のある子ども達の不器用さについて」 講師：群馬大学医学部保健学科 准教授 岩崎 清龍	県立いしかわ特別支援学校	318人
13:30～15:00	分科会 講義「障害者の生活支援からみえてきた学校現場への期待」 講師：リハビリテーションセンター職員 作業療法士		
合計			350人

### 3 県内理学療法、作業療法養成校学生のための福祉用具・住環境技術実習

実施年月日	内 容	学 校 名	学科及び参加者数
H24. 5. 22(火) H24. 5. 29(火) H24. 6. 12(火) H24. 6. 19(火) H24. 6. 26(火) 13:00～15:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活行為、自動車</li> <li>・シーティング</li> <li>・住環境</li> <li>・移動、移乗</li> <li>・コミュニケーション</li> </ul>	金沢リハビリテーション アカデミー 作業療法学科3年	14人 14人 14人 14人 14人
H24. 5. 28(月) 13:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テクニカルエイドによる生活支援、</li> <li>・車いす</li> <li>・住環境</li> </ul>	金沢大学医学部保健学科 作業療法士専攻3年	20人
H24. 6. 25(月) H24. 7. 2(月) 13:30～16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす</li> <li>・住環境</li> </ul>	金沢大学医学部保健学科 理学療法士専攻3年	20人 20人
H24. 6. 4(火) H24. 6. 18(火) H24. 6. 21(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場面における座位姿勢の考え方</li> <li>・車いす</li> <li>・移乗動作別住環境</li> <li>・移乗動作と福祉用具</li> <li>・モニターによるADLの実際</li> </ul>	国際医療福祉専門学校七 尾校 作業療法士専攻2年	9人 9人 34人
合 計			182人

### 4 見学実習及び体験学習の実施

#### ア 見学実習

	高校	福祉系専門 学校	短期大学	大学	企業	その他	合計
見学受入 団体数	4(4)	9(15)	0(0)	2(4)	1(1)	4(5)	20(29)
見学者数 (人)	68	300	0	187	7	63	625

※ ( ) は延べ団体数

#### イ 小・中・高校生向け体験学習

	小学校	中学校	高 校	合 計
体験学習実施団体数	4(4)	3(4)	1(1)	8(9)
参加者数 (人)	279	366	44	689

※ ( ) は延べ団体数

#### ウ 高齢者疑似体験用具の貸出

	小学校	中学校	高 校	福祉系専門 学校	企 業	その他	合 計
貸出件数	6(6)	5(7)	2(2)	4(4)	2(2)	9(11)	28(32)

※ ( ) は延べ貸出件数

## 5 バリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」の利用状況

高齢者や障害者が住みやすいバリアフリー体験住宅として見学者の受け入れを行うと共に県内医療福祉関係者、企業等に対して福祉用具や住宅改修に関する開発、研究、教育の場として提供し、必要な場合は専門家の技術支援を行う。

区 分	利 用 人 数		利 用 件 数	
	23年度 (4～3月)	24年度 (4～3月)	23年度 (4～3月)	24年度 (4～3月)
研究・開発	36人	22人	13件	8件
テクニカルサポート相談	864	643	110	97
研修教育	1,485	1,598	58	57
一般見学	422	608	66	71
合 計	2,807	2,871	247	233

### Ⅲ バリアフリー推進工房事業

1 テクニカルエイドの実施（医療・福祉機関等が既存の技術では解決できない福祉用具や住環境の指導）

工業試験場や土木部建築住宅課などと連携し、福祉用具や住環境、ユニバーサルデザインに関する研究開発および技術支援を行う。

依頼元	件数
医療・福祉機関等	379
難病相談・支援センター	65
教育機関	93
計	537件

#### 2 研究開発

研究テーマ	内容
生活・環境適応型車いすの研究開発	電動姿勢変換機能付き車いすの試作
就学・就労・生活のための道具・環境づくり	書字用自助具のユニバーサルデザイン研究

#### 3 企業・団体・行政に対する住環境、ユニバーサルデザインの情報提供、製品評価、開発指導

依頼元	件数・内容	
企業	365件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津田駒：車いす携帯用スロープの研究開発（フォローアップ）</li> <li>・大同工業：安全・軽量シルバーカーの開発（フォローアップ）</li> <li>・イマセン：座面昇降式電動車椅子の研究開発等</li> </ul>
行政・団体	230件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県健康福祉部23件（バリアフリー社会推進賞福祉用具部門、障害者フェスティバル等）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県土木部19件（県立中央病院BF整備、金沢城公園玉泉院丸BF整備、額県営住宅55号棟BF整備等）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県商工労働部4件（医商工連携促進事業等）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県更生相談所11件（補装具に関する設計・製作相談等）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町11件（JR金沢駅・寺井駅ユニバーサルデザイン整備等）</li> </ul>
計	595件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療福祉施設：85件、</li> <li>・教育機関：17件、</li> <li>・その他：37件</li> </ul>

#### 4 福祉用具試用のための貸し出し 831件

#### IV 難病相談・支援センターの状況

##### 1 難病相談

	電 話	面 接 (ケース会議等含む)		メール F A X はがき	家庭 訪問	合計 (人)
		(再掲) 医師	(再掲) P T O T			
人数	359	86	13	49	45	539

##### 2 患者交流会

回 数	参加人員 (延べ)
25 回	188 人

##### 3 セルフマネジメント研修

難病患者は、医学的な治療だけでなく、患者自身が病気を管理「セルフマネジメント（自己管理）」が重要となる。そこで難病患者及び家族が、セルフマネジメントを理解し、病気とうまくつきあい自分らしく日常生活を送ることができる一助とする。

実施年月日	研 修 会 テ ー マ 及 び 講 師	参加 者数
毎月第 1, 3 土曜日	「ヨーガ教室」 講師：森 忠幸	人 47
H24. 7. 6(金)	「出張ヨーガ教室」 講師：森 忠幸	25
H24. 11. 17(土)	「心とからだが変わる笑医のちから」 講師：笑医塾 塾長 高柳 和江	55

##### 4 医療講演会

実施年月日	研 修 会 テ ー マ 及 び 講 師	参加 者数
H24. 9. 8(土)	「呼吸器系難病の理解と療養生活について」 講師：金沢医科大学 呼吸器内科 梅 博久	人 25
H24. 10. 13(土)	「血液と病気とのつき合い方」 講師：芳珠記念病院 内科 青島 敬二	25

## 5 専門職研修会

### (1) ヘルパー

実施年月日	研修会テーマ及び講師	参加者数
H25. 3. 6(水)	難病ホームヘルパー養成研修 講義 「石川県の難病対策」 健康推進課職員 「難病相談・支援センターについて」 難病相談・支援センター職員 「神経難病の理解」 国立病院機構医王病院 医師 高橋 和也 「在宅難病患者への看護について」 国立病院機構医王病院 看護師 高橋 利津子 「難病患者さんと家族への精神的支援について」 国立病院機構医王病院 医療ソーシャルワーカー 中本 富美	58人

### (2) ケアマネジャー等

実施年月日	研修会テーマ及び講師	参加者数
H24. 7. 7(土)	難病支援のための介護支援専門員等研修 「神経難病の理解」 講師：国立病院機構医王病院 医師 駒井 清暢（7月7日、30日）、 石田 千穂（7月23日）	314人
H24. 7. 23(月)	「神経難病の看護の実際」 講師：国立病院機構医王病院 看護師 吉田 幸（7月7日、23日） 古本 桂子（7月30日） 「難病患者が使える制度、難病相談・支援センターについて」 講師：難病相談・支援センター 職員 グループワーク「活動の現状と課題」 講師：国立病院機構医王病院	
H24. 7. 30(月)	医療ソーシャルワーカー 中本 富美（7月7日、23日、30日） 小田 輝実（7月7日） 畠中 暁子（7月23日） 吉田 力（7月30日）	

## 6 ボランティア育成

### (1) 神経難病生活応援ボランティア育成研修

難病は、身体的、精神的、社会的、経済的に大きな負担を伴うが、特に神経難病の場合は、進行性であることから、日常生活や介護等困難な状況であり、精神的に落ち込んでいることが少なくない。そこで、神経難病の患者や家族に対して、少しでも生活の質を向上できるように、病気を理解し話し相手やその他生活についての応援ができる人材を育成する。

実施年月日	研修会テーマ及び講師	参加者数
H24. 5. 20(日)	「脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の方への対応について」 講師：石川県難病相談・支援センター職員	2人

## 7 難病支援連絡会

### (1) 特定疾患関連団体連絡会

難病患者団体間の連携の推進を図る。また難病相談・支援センターとの情報交換を行い、難病患者支援体制を検討する。

実施年月日	連絡会内容	参加者数
H24. 5. 25(金)	第1回特定疾患関連団体連絡会	人 13
H25. 3. 1(金)	第2回特定疾患関連団体連絡会	12

### (2) 神経難病拠点病院連絡会

神経難病拠点病院である医王病院スタッフ（医師、ソーシャルワーカー）と、地域における神経難病患者の療養問題や支援事業について連絡会を開催している。

## 8 難病啓発普及事業

### (1) ホームページ作成・活用

各患者会、難病相談・支援センター、保健福祉センター等で実施される難病関係の研修会の案内や難病医療機関拠点病院、協力病院の掲載等、保健、医療、福祉に関する情報を発信。

### (2) 難病相談・支援センターだよりの発行・配布 年2回 各1,000部

### (3) 難病患者生活支援啓発普及事業

難病は、原因不明で治療方法がなく、かつ経過が長期にわたることが少なくない状況であり、時には生涯にわたり専門医療が必要になる。そういう中で、難病は極めて特別な病気という認識から国民の関心が薄く、臨床に携わる関係者においても実際に難病の患者に出会う機会も限られ病気についての理解が不十分であることが少なくない。

そのため、将来的に現場で難病患者に接することがあると思われる医療・保健・福祉関係大学生に難病患者の生活、現状を具体的に理解してもらい、適切な支援ができるようにする。

実施年月日	研修会テーマ及び講師	参加者数
H24. 7. 2(月)	「難病患者体験談」 講師：日本ALS協会石川県支部	人 114
H24. 7. 11(水)	「難病患者体験談」 講師：いしかわSCD友の会	83
H24. 9. 13(木)	「難病患者体験談」 講師：石川県パーキンソン病友の会	40

## 9 就労支援

実施年月日	研修会テーマ及び講師	参加者数
H24. 10. 4(木)	就労相談会「最近の雇用情勢と求職活動のポイントについて」 講師：ハローワーク金沢 出水 正人	9人

10 その他

(1) 患者会支援

実施年月日	研修会テーマ及び講師	参加者数
H24. 4. 15(日)	石川県OPLL友の会 第11回総会 医療講演会・患者交流会	人 40
H24. 5. 13(日)	北陸膠原病ネットワークサポーター会議	20
H24. 5. 20(日)	日本ALS協会石川県支部 総会	27
H24. 6. 17(日)	リウマチ友の会石川県支部 第41回支部大会	80
H24. 9. 30(日)	いしかわIBD結の会交流会	45
H24. 9. 30(日)	第7回 北陸膠原病支援ネットワーク総会	150
H24. 11. 10(土)	網膜色素変性症の患者と家族の会 第16回医療情報講演会	51

(2) 地域活動支援

実施年月日	研修会テーマ及び講師	参加者数
H24. 9. 9(日)	多系統萎縮症相談会 講師：リハビリテーションセンター職員	人 29
H24. 10. 24(水)	特発性大腿骨頭壊死症交流会 講師：リハビリテーションセンター職員	6
H24. 11. 5(月)	パーキンソン病・SCD相談会 講師：リハビリテーションセンター職員	20
H24. 11. 8(木)	パーキンソン病相談会 講師：リハビリテーションセンター職員	9

## V 高次脳機能障害相談・支援センターの状況

### 1 高次脳機能障害相談

	電 話	面 接	F A X等	家庭訪問	合 計
人 数	401	168	40	77	686 人

### 2 生活支援教室

同じ障害を持つ患者が集まり、個々に適した社会参加の方法を見つけ実現する一助とする。

回 数	参加人員 (実)
48 回	434 人 (11 人)

### 3 家族教室

高次脳機能障害は、頭部外傷、脳血管障害等による脳損傷の後遺症として、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害が生じ、日常生活・社会生活への適応が困難となる障害である。特に生活場面での障害は、家族への影響も大きく、家族が正しく理解して対応することの難しい場合が多い。

高次脳機能障害者家族教室は、家族が高次脳機能障害を正しく理解することや、家族同士が交流することを目的として実施する。

実施年月日	研 修 会 テ ー マ 及 び 講 師	参加者数
H24. 11. 18	講義 「NASVA 介護料について」 講師 自動車事故対策機構 職員 「相談・支援窓口の紹介」 「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師 リハビリテーションセンター職員 交流会	11 人
H24. 12. 7	講義 「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師 リハビリテーションセンター職員 「使える社会資源について」 講師 公立能登総合病院 MSW 谷内 満希子 交流会	6 人
H24. 12. 18	講義 「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師 リハビリテーションセンター職員 「使える社会資源について」 講師 金沢脳神経外科病院 MSW 永田 若菜 交流会	17 人

### 4 専門職研修会

実施年月日	研 修 会 テ ー マ 及 び 講 師	参加者数
H24. 8. 4	講義 「高次脳機能障害の評価と介入方法」 講師 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 教授 鈴木 孝治	141 人

## 5 高次脳機能障害支援関係者連絡会

実施年月日	連絡会内容	講師	参加者数
H25. 3. 14		金沢湖南苑 作業療法士 芦田 和寛 生活支援センター雪見橋 相談支援専門員 長谷川 剛	人 24
H25. 3. 18	講義 「高次脳機能障害者の機能訓練について」 「高次脳機能障害者への就労支援について」 「高次脳機能障害相談・支援センターから活動報告」	青山彩光苑リハビリテーションセンター 作業療法士 船山 真優 生活支援員 岩崎 良美	13
H25. 3. 19	意見交換	金沢ふくみ苑 作業療法士 加藤 哲也 こまつ障害者就業・生活支援センター 相談支援専門員 能勢 三寛	17

## 6 高次脳機能障害啓発普及事業

### (1) ホームページ作成・活用

患者会、高次脳機能障害相談・支援センター、保健福祉センター等で実施される研修会の案内や高次脳機能障害協力病院の掲載等、保健、医療、福祉に関する情報を発信。

### (2) 高次脳機能障害相談・支援センターだよりの発行・配布 年2回 各 1,000部